



第21号

発行日：

2024年11月17日

発行所：

株式会社エヌワイケー

〒154-0012

世田谷区駒沢5-7-6

電話：

03-3704-8391

FAX：

03-3703-7121

発行人：

横山和俊

所長のひとし言 ―原発差し止め判決元裁判官の挑戦状―

向寒の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます、所長の横山です。気象庁は今日7日、東京で「木枯らし」1号が吹いたと発表しました。当日の東京都心の午前中の最低気温は11.4度と今季一番の冷え込みとなりました。今年も秋を通り越し一気に冬になってしまった感じです。秋を感じることはないここ数年は、夏の猛暑の終わりを喜ぶべきか、実りの秋を感じられないことを悲しむべきか複雑な心境になります。

さて、今年は世界的な選挙イヤーと言われていましたが、先月の衆院議員選挙、今月の米大統領選挙をもって予定されていた大きな選挙は終了となりました。結果はご承知の通り衆院選では与党自民・公明党が大敗の過半数割れ、米大統領選ではトランプ元大統領が返り咲きました。今回の衆院選では、裏金問題や物価高対策が注目されたようです。確かに、立法院である国会議員が脱税まがいの行為をしていた「裏金問題」や、田安基調による「物価高対策」は生活に直結するだけに、おおいに議論なされるべき問題です。しかし、本日に議論されるべき問題はそれだけだったでしょうか。選挙が行われることで私たちは直接政治に参加できます。と同時に、選挙は国民に問題提起を投げかける大切な行事です。「国民の代表」としてこの国の指針を決めなければいけない国会議員には、より長期的な視点で問題提起をもらいたいのです。例えば、少子高齢化の問題。物価高などと違い日々の暮らしの中では影響を感じにくいですが、すでにいたるところで問題が起きています。財政問題もわかりです。安全保障を声高に叫び、防衛費増を容認する向きもありますが、そもそも赤字財政の国がどれほどの防衛力があるのでしょうか。ウクライナの現状をみれば明らかです。さらにはエネルギー問題。資源国ではないわが国では議論を避けて通れない問題です。選挙が終わった今だからこそ、腰を据えて国民に向け議論を呼びかけ最適解の道筋をつけてもらいたいのです。そのような意味も含め今号ではエネルギー問題に関する記事を紹介します。

〈本件原発の運転停止によって多額の貿易赤字が出るとしても、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなるのが国富の喪失である〉との2014年5月に関西電力大飯原発の運転差し止めを命じた福井地裁判決の裁判長だった樋口英明氏。先の判決は11年3月に起きた東京電力福島第一原発事故後、原発の運転差し止めを命じた初の司法判断でした。当然、原発推進派からは批判が噴出しました。それでも樋口氏は翌年4月、福井県の関西電力高浜原発の再稼働差し止めを命じる仮処分決定を出しました。現在は退官し原発の危険性を訴える講演や、各地の原発訴訟の助言を続けています。そんな樋口氏の根底にあるものは、国土を奪い、歴史を途絶えさせる原発事故を許さない姿勢です。10月21日付毎日新聞夕刊より、樋口氏のインタビュー記事「真の保守こそ原発の道を」を紹介します。

私の政治思想は保守。革新的な考えは毛頭ない。しかし、私が許せないのは原発だ。原発における安全性も必要性も思い込みばかりだ。まず原発には「止める・冷やす・閉じ込める」という安全3原則がある。一つでも失敗したら大惨事だ。福島原発事故では核分裂反応を「止める」ことはできたが、全電源喪失で「冷やす」ことに失敗した。そのため核燃料が解け落ち、水素爆発が起きて「閉じ込める」のにも失敗した。今も放射線量が高く避難指示が続く「期間困難区域」は福島県内7市区町村で計309平方キロにも及び。

「震災後は規制基準を厳格化した。安全対策は万全だ」と信じるのは全くの思い込みだ。原発は施設ごとに耐震設計の目安となる基準地震動想定している最大の揺れがあり、加速度の単位「ガル」で表す。震災

後に再稼働した原発の基準地震動は、最も高い関西電力美浜原発で993ガルだ。ところが、東日本大震災では2933ガル、今年1月の能登半島地震では2828ガルと大きく上回る。この点だけを見ても新規制基準が全く不十分だとわかる。なのに、裁判所は新規制基準が適切であるとの前提で、各施設が基準に適合しているかばかりに目を向けている。本来重要なのは新規制基準自体が適切かどうかだ。

思い込みや誤解はまだある。「原発がないと日本の電力は立ち行かない」と思われがちだが、現在稼働中の原発が全国の電力供給に占める割合は5%程度に過ぎない。「発電コストが安い」もしい。米政府機関の試算では太陽光や陸上風力の費用が原発の半分以上で、欧米では採算を理由に廃炉にする例も出ている。さらにロシアのウクライナ侵攻では原発が攻撃されたが、日本は海岸沿いに無防備な原発が50基以上も並ぶ。原発はエネルギー以前に国防問題だ。化石資源が乏しい日本では、使用済み核燃料を再処理し高速増殖炉で再利用する「核燃料サイクル」を1950年代から目指してきたが、一向に機能せずもはや破綻している。原発は地方復興の側面もあったが、事故後は福島に被害を押し付ける形となり、状況は一変した。にもかかわらず、岸田政権は原発の新増設の検討やリプレイス建て替えの具体化、最長60年としてきた運転期間の延長まで認めた。私が原発に反対するのは愛国心からだ。今の日本で原発ほど重要な問題はなく、真の保守政治家なら身を捨てても止めるべきではないだろうか。

政府は今年度中に40年度の電源構成を定める新たなエネルギー基本計画を取りまとめます。石破首相も総裁選では「原発ゼロ」に言及していましたが、結局は岸田路線を踏襲するとみられています。エネルギー政策は経済にも生活にも大きな影響を及ぼします。広く議論がされるよう議員の方々に問題提起されることを望みます。

編集後記

新聞社販売局担当員は取引のある販売店を訪れます。全国紙となればキャリアの過程で全国津々浦々の販売店を訪店します。訪店の際、販売所長との会食も当然あります。ゆえに担当員は全国各地の地元で愛される名店を数多く知っています。先日担当員訪店でその話題になり、静岡県の名店を聞くことができました。先月号の駒澤書翰の作り終えた10月の朝刊休みの日、7月に購入したオートバイの初ツーリングも兼ね、弊社主任の栗飯原あいはいらと静岡県民のソウルフードを食しに行ってきました。

日中はまだ暑い季節でしたが、早朝はバイクで感じる風がすこぶる快適で、平日にもかかわらず道中に寄ったサービスエリアはオートバイの駐車スペースが埋め尽くされるほど沢山のオートバイが停まっていた。関店前に到着したのは「炭焼きレストランさわやか・富士鷹岡店」。炭焼きレストランさわやかは、静岡県内のみで営業するハンバーグが人気のファミリールレストランです。事前に担当員より東京に近い店舗は混雑すると聞かされていたので、富士鷹岡店をチョイスしました。復帰後初ツーリングにはちょうど良い距離で、当日は朝食を抜いていたのでブランチには最高の時間です。さすが静岡県民のソウルフード。開店前の10時半にもかかわらず、すでに9組も前に予約が入っています。しかし1巡目で無事に席につけメニューを開きます。普段、ステーキでも120gほどしか食さない私ですが、栗飯原と共に250gのげんこつハンバーグランチを注文しました。はたして、出てきた料理はげんこつを彷彿させる真ん丸なハンバーグ。定員さんが最後の調理をして食するタイミングを計ります。このエンターテインメント性も人気を呼ぶのですね。外はカリカリ、中はふんわりと口の中でその二つが絶妙なハーモニーを奏でます。また、ハンバーグにかけるソースが絶品。気が付けば250gはすっかりお腹の中へ。お代わりさえ考えてしまいました。しかし、やはり250g。帰りの道中は満腹のお腹を抱え、睡魔との戦いになってしまいました。HPを見ると、鮮度にこだわるからこの静岡県限定のようです。一度食べると病みつきになるのも納得です。今度は家族で出かけたかったと思った「さわやかツーリング」でした。